

# 新教育課程

内容解説資料  
886365

2022 年度～

高等学校 学習指導要領

## ポイント解説

国語

### CONTENTS

現代の国語	新課程と現行課程の内容比較	2
言語文化	新課程と現行課程の内容比較	4
論理国語	新課程と現行課程の内容比較	6
文学国語	新課程と現行課程の内容比較	8
古典探究	新課程と現行課程の内容比較	10
国語表現	新課程と現行課程の内容比較	12
カリキュラムモデル案		14



# 高等学校学習指導要領「総則」の改訂の要点

## 【総則の主な改訂ポイント】

### 1. 教育基本法の理念と教育課程の役割等

○前文に、「社会に開かれた教育課程」実現に向け、広く社会で共有されることが望まれるということを明記。

### 2. 高等学校における学びの質の改善

○生徒の資質・能力を育成するため、**主体的・対話的で深い学び**の視点から授業改善に配慮することを明記。

○教育活動の質の改善を図るため、各学校において**カリキュラム・マネジメント**に努めることを明記。

### 3. 学校段階等間や教科等間の接続

○生徒に求められる資質・能力がバランスよく育まれるよう、卒業後の進路を含む**学校段階等間の接続**を明記。

○言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習基盤となる資質・能力等の育成を図ることを明記。

○教科等の特性に応じて、言語活動や体験活動、ICT等を活用した学習活動等の充実を図ることを明記。

### 4. 生徒の発達への支援、家庭や地域との連携・協働等

○生徒の発達支援の視点から、**ホームルーム経営**や**生徒指導**、**キャリア教育の充実**と**教育課程の関係**を明記。

○**部活動**について、教育課程との関連を図るよう留意、関係機関と連携し持続可能な運営体制の確保を明記。

○教育課程の実施に当たり、**家庭や地域と連携し、協働**していくことを明記。

### 5. 道徳教育の充実

○校長の方針の下、**道徳教育推進教師**を中心に、全ての教師が協力し**道徳教育**を展開することを新たに明記。

○「**公共**」「**倫理**」「**特別活動**」が、人間としての在り方生き方に関する中核的指導の場面であることを明記。

## (1)科目構成と必履修科目

○卒業までに履修させる単位数は、現行どおり**74単位以上**。なお、1単位時間を50分、35単位時間の授業を1単位として計算することを標準とする。

○必履修科目は、国語で「**現代の国語**」及び「**言語文化**」、地理歴史で「**地理総合**」及び「**歴史総合**」、公民で「**公共**」、外国語で「**英語コミュニケーションⅠ**」、情報で「**情報Ⅰ**」に変更された。「総合的な学習の時間」が「**総合的な探究の時間**」に変更された。

○必履修科目の単位数は標準単位数を下らないとするが、「**数学Ⅰ**」と「**英語コミュニケーションⅠ**」で必要な場合に2単位とできる。他の必履修科目は2単位のものを除き、単位数を減じることができる。「**総合的な探究の時間**」も**必要な場合、2単位**とできる。

○新教科「**理数科**」（科目「**理数探究基礎**」「**理数探究**」）が設けられ、その履修により「総合的な探究の時間」と同様の成果が期待できる場合、置き換えが可能。

○各教科・科目の標準単位数は次のページの図のとおりであるが、生徒の実態を考慮し、特に必要のある場合には、**単位数を増加**して配当することができる。

○生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じ、「**学校設定教科**」「**学校設定科目**」を設けることができる。なお、修得単位数は合わせて20単位まで。

○**専門学科**では、専門教科・科目の履修単位数が25単位を下ってはならない。専門学科・科目の履修によって、必履修教科・科目の履修と同じ成果を期待できる場合、置き換えることができる。また課題研究等の履修に

より「総合的な探究の時間」と同様の成果が期待できる場合も置き換えることができる。

## (2)各教科・科目の授業時数

○全日制課程では年間35週の授業を行うことを標準とするが、必要な場合は特定の学期又は特定の期間(夏季・冬季等の休業期等)に授業を行うことができる。

○全日制課程の週当たりの授業時数は**30単位時間を標準**とするが、**必要な場合に増加**することができる。

○1単位時間は各学校が適切に定める。10分間程度の短時間の指導も一定要件で授業時数に算入できる。

○「総合的な探究の時間」の活動が特別活動の学校行事と同様の成果が期待できる場合、置き換えられる。

## (3)各教科・科目の内容の取扱い

○各科目等に示す「**内容の取扱い**」で、内容の範囲や程度等を示す事項は、必要な場合にはこの事項に関わらず指導できるが、科目等の示す目標・内容の趣旨の逸脱や、生徒への負荷荷重になってはならない。

○各科目等の「**内容**」に示す項目の順序は、特に「**内容の取扱い**」等で示す場合を除き、指導の順序を示すものでないので、学校においてその取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

# 高等学校の教科・科目構成

## ▼ 国語科

論理国語 (4)	文学国語 (4)	国語表現 (4)	古典探究 (4)
現代の国語 (2)		言語文化 (2)	

## ▼ 外国語科

英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ 各(4)	論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 各(2)
英語コミュニケーションⅠ (3)	

□ …共通必修

■ …選択必修

※同教科で下層にある科目が基礎的科目。  
※カッコ内の数字は標準単位数。

## ▼ 地理歴史科

地理探究 (3)	日本史探究 (3)	世界史探究 (3)
地理総合 (2)	歴史総合 (2)	

## ▼ 公民科

倫理 (2)	政治・経済 (2)
公共 (2)	

## ▼ 家庭科

家庭基礎 (2)	家庭総合 (4)
-------------	-------------

## ▼ 情報科

情報Ⅱ (2)
情報Ⅰ (2)

## ▼ 理数科

理数探究 (2~5)
理数探究基礎 (1)

## ▼ 保健体育科

体育 (7~8)	保健 (2)
-------------	-----------

## ▼ 総合的な探究の時間

総合的な探究の時間 (3~6)
--------------------

芸術は音楽Ⅰ~Ⅲ, 美術Ⅰ~Ⅲ,  
工芸Ⅰ~Ⅲ, 書道Ⅰ~Ⅲがあり,  
各Ⅰが選択必修。(各2)

## ▼ 数学科

数学Ⅲ(3)	数学C(2)
数学Ⅱ(4)	数学B(2)
数学Ⅰ(3)	数学A(2)

## ▼ 理科

物理(4)	化学(4)	生物(4)	地学(4)	
科学と人間生活(2)	物理基礎(2)	化学基礎(2)	生物基礎(2)	地学基礎(2)

※「科学と人間生活」を含む2科目, 又は基礎を付した科目を3科目が必修。

(文部科学省資料を基に作成)

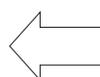
# 高等学校学習指導要領「国語」の改訂について

### 【改訂のポイント】

- 必修科目として、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目「現代の国語」と、我が国の言語文化への理解を深める科目「言語文化」を新設した。
- 理解したり表現したりするために必要な語句を身に付け、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする指導を、全科目において改善、充実させた。
- 論理的な思考力の育成につながる情報の扱い方に関する事項を、「現代の国語」「論理国語」に位置付け、その指導を改善、充実させた。
- 我が国の言語文化に関する指導を、「言語文化」「文学国語」「古典探究」において改善、充実させた。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の学習過程の一層の明確化を図り、各過程における学習内容を、全科目において改善、充実させた。

### 【科目構成と必修科目】

科目	改訂	
	標準単位数	必修科目
現代の国語	2	○
言語文化	2	○
論理国語	4	
文学国語	4	
国語表現	4	
古典探究	4	



科目	現行	
	標準単位数	必修科目
国語総合	4	○2単位まで減可
国語表現	3	
現代文A	2	
現代文B	4	
古典A	2	
古典B	4	



# 〔必修〕現代の国語

2単位

## 新課程と現行課程の内容比較

\*傍線部は新たに加わった内容

\*薄字は「言語文化」に対応する内容

### 新課程「現代の国語」(2単位)

#### ◆内容〔知識及び技能〕

##### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 言葉の働き—認識や思考を支える
- イ 話し言葉と書き言葉の特徴、役割、表現の特色
- ウ 常用漢字の読み書き
- エ 実社会に必要な語句や語彙
- オ 話や文章の組み立て方、接続の仕方
- カ 修辞、直接的な述べ方と婉曲的な述べ方

##### (2) 話や文章中の情報の扱い方に関する事項

- ア 情報と情報との関係—主張と論拠
- イ 情報と情報との関係—個別と一般
- ウ 推論の仕方
- エ 情報の妥当性や信頼性の吟味
- オ 引用の仕方や出典の示し方

##### (3) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 読書の意義と効用

#### ◆内容〔思考力、判断力、表現力等〕

##### A-(1) 話すこと・聞くことに関する指導事項

- ア 話題の設定、情報の収集・整理、内容の検討
- イ 話の構成や展開の工夫
- ウ 話し方や伝え方の工夫
- エ 聞き取った情報の評価と共有
- オ 話合いの仕方や結論の出し方の工夫

##### A-(2) 話すこと・聞くことの言語活動例

- ア スピーチ⇔聞いて同意、質問、反論
- イ 報告、連絡、案内⇔聞いて質問、批評
- ウ 議論や討論
- エ 発表

##### B-(1) 書くことに関する指導事項

- ア 題材の決定、情報の収集・吟味、内容の検討
- イ 文章の構成や展開の工夫
- ウ 根拠の示し方、説明の仕方、語句、表現の工夫
- エ 推敲—自分の文章の特長や課題の把握

##### B-(2) 書くことの言語活動例

- ア 本文や資料を引用しながら論述
- イ 手順書や紹介文、案内文や通知文
- ウ 報告書や説明資料

### 現行課程「国語総合」(4単位)

#### ◆伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

##### (1) 伝統的な言語文化に関する事項

- ア 言語文化の特質、我が国の文化と外国の文化との関係
- イ 文語のきまり、訓読のきまり

##### (2) 言葉の特徴やきまりに関する事項

- ア 言葉の成り立ち、表現の特色、言語の役割
- イ 文や文章の組み立て、語句、表記、語彙

##### (3) 漢字に関する事項

- ア 常用漢字の読み書き

#### ◆内容

##### A-(1) 話すこと・聞くことに関する指導事項

- ア 論理の構成や展開の工夫
- イ 効果的に話すこと、的確に聞くこと
- ウ 工夫して話し合うこと
- エ 自己評価と相互評価

##### A-(2) 話すこと・聞くことの言語活動例

- ア スピーチや説明
- イ 報告や発表⇔聞いて内容や表現を吟味
- ウ 話合いや討論

##### B-(1) 書くことに関する指導事項

- ア 題材の選定、文体、語句の工夫
- イ 論理の構成や展開の工夫、論拠の明示
- ウ 適切な表現の仕方
- エ 自己評価と相互評価

##### B-(2) 書くことの言語活動例

- ア 詩歌や随筆—情景や心情の描写
- イ 説明や意見—文章や図表を引用
- ウ 手紙や通知—相手や目的に応じた語句

### C-(1) 読むことに関する指導事項

- ア 内容や構成、論理展開の把握
- イ 情報を相互に関係付けながら解釈
  - ・文章の構成や論理展開を評価し、共有

### C-(2) 読むことの言語活動例

- ア 内容や形式について論述、批評―引用や要約
- イ 異なる形式で書かれた複数の文章、図表等を伴う文章を読み、理解したことを発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする

#### ◆内容の取扱い

##### (1) 【思考力、判断力、表現力等】における授業時数

- ア 話すこと・聞くこと…20～30単位時間程度
- イ 書くこと…30～40単位時間程度
- ウ 読むこと…10～20単位時間程度

##### (2) 【知識及び技能】に関する配慮事項

- ア 常用漢字―「言語文化」との関連を図る

##### (3) 【思考力、判断力、表現力等】に関する配慮事項

- ア 口語のきまり、敬語の用法を扱う ※適宜
- イ 効果的に文字を書く―中学書写との関連を図る

##### (4) 教材に関する留意事項

- ア 「読むこと」の教材は、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とする
- イ 言語活動が十分に行われるように教材を選定
- ウ 教材を通して育む能力
  - (ア) 言語文化に対する関心・理解、国語の尊重
  - (イ) 言語生活に対する関心、伝え合う力の向上
  - (ウ) 思考力や想像力、豊かな心情、言語感覚
  - (エ) 情報を活用して判断する能力、創造的精神
  - (オ) 論理的・科学的な考察力、視野の拡大
  - (カ) 生活や人生への考察、たくましく生きる意志
  - (キ) 人間・社会・自然への関心、深い考察
  - (ク) 国際理解、日本人の自覚、国際協調の精神

### C-(1) 読むことに関する指導事項

- ア 表現の特色に注意して読む
- イ 文章の的確な読み取り、要約や詳述
- ウ 人物、情景、心情を読み味わう
- エ 構成や展開、内容や表現の仕方を評価
- オ 本や文章を読んで情報を得、考えを深める

### C-(2) 読むことの言語活動例

- ア 脚本化、古典を現代の物語に書き換え
- イ 表現メディアから情報を読み取り、まとめる
- ウ 実用的な文章を読んで理解し、話し合う
- エ 文章を読み比べ、内容や表現を批評する

#### ◆内容の取扱い

##### (1) 「話すこと・聞くこと」に関する配慮事項

- ア 15～25単位時間程度を配当
- イ 口語のきまり、言葉の用法、敬語の用法を扱う  
※適宜

##### (2) 「書くこと」に関する配慮事項

- ア 30～40単位時間程度を配当

##### (3) 「読むこと」に関する配慮事項

- ア・古典と近代以降の文章との授業時数は同等
  - ・古文と漢文との割合は、一方に偏らない
- イ 音読、朗読、暗唱を取り入れる
- ウ 読書の幅を広げ、読書の習慣を養う

##### (4) 「伝統的な…」に関する配慮事項

- ア 文語のきまり、訓読のきまりは、読むことの指導に即して行う

##### (5) 教材に関する留意事項

- ア 各領域の能力を偏りなく養う話題や題材を調和的に取り上げる
- イ 言語活動が十分に行われるように教材を選定
- ウ・古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳を適切に用いる
  - ・漢文には訓点を付け、適宜書き下し文を用いる
  - ・古典に関する近代以降の文章を含める
- エ 教材を通して育む能力
  - (ア) 言語文化に対する関心・理解、国語の尊重
  - (イ) 言語生活に対する関心、伝え合う力の向上
  - (ウ) 思考力や想像力、豊かな心情、言語感覚
  - (エ) 情報を活用して判断する能力、創造的精神
  - (オ) 論理的・科学的な考察力、視野の拡大
  - (カ) 生活や人生への考察、たくましく生きる意志
  - (キ) 人間・社会・自然への関心、深い考察
  - (ク) 我が国の伝統と文化に対する関心・理解
  - (ケ) 国際理解、日本人の自覚、国際協調の精神



# 〔必修〕言語文化

2単位

## 新課程と現行課程の内容比較

\*傍線部は新たに加わった内容

\*薄字は「現代の国語」に対応する内容

### 新課程「言語文化」(2単位)

#### ◆内容(知識及び技能)

##### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 言葉の働き—文化の継承, 発展, 創造を支える
- イ 常用漢字の読み書き
- ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句や語彙
- エ 文脈—文章の意味形成
- オ 表現技法—本歌取り, 見立て

##### (2) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 我が国の言語文化の特質, 我が国の文化と外国の文化との関係
- イ 作品や文章の歴史的・文化的背景
- ウ 文語のきまり, 訓読のきまり, 古典特有の表現
- エ 文字や言葉の変化—古典から現代へのつながり
- オ 文体の変化—言文一致体, 和漢混交文
- カ 読書の意義と効用

#### ◆内容(思考力, 判断力, 表現力等)

##### A-(1) 書くことに関する指導事項

- ア 題材の決定, 材料の収集・吟味, 内容の検討
- イ 文章の構成や展開, 表現の仕方の工夫

##### A-(2) 書くことの言語活動例

- ア・本歌取りや折句を用いて短歌や俳句を作る
- ・伝統文化に関する題材を選んで随筆を書く

##### B-(1) 読むことに関する指導事項

- ア 内容や構成, 展開の把握
- イ 作品に表れるものの見方, 感じ方, 考え方を捉えて解釈
- ウ 構成や展開, 表現の仕方や工夫を評価
- エ 作品の成立背景や他作品との関係をふまえて解釈
- オ 作品の解釈をふまえて, 我が国の言語文化について自分の考えを持つ

##### B-(2) 読むことの言語活動例

- ア 我が国の伝統や文化に関する解説や評論, 随想を読み, 我が国の言語文化について論述・発表
- イ 作品の内容や形式について批評・討論
- ウ 異なる時代に成立した随筆や小説, 物語を読み比べ, 比較して批評・討論

### 現行課程「国語総合」(4単位)

#### ◆伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

##### (1) 伝統的な言語文化に関する事項

- ア 我が国の言語文化の特質, 我が国の文化と外国の文化との関係
- イ 文語のきまり, 訓読のきまり

##### (2) 言葉の特徴やきまりに関する事項

- ア 言葉の成り立ち, 表現の特色, 言語の役割
- イ 文や文章の組み立て, 語句, 表記, 語彙

##### (3) 漢字に関する事項

- ア 常用漢字の読み書き

#### ◆内容

##### A-(1) 話すこと・聞くことに関する指導事項

- ア 論理の構成や展開の工夫
- イ 効果的に話すこと, 的確に聞くこと
- ウ 工夫して話し合うこと
- エ 自己評価と相互評価

##### A-(2) 話すこと・聞くことの言語活動例

- ア スピーチや説明
- イ 報告や発表⇄聞いて内容や表現を吟味
- ウ 話し合いや討論

##### B-(1) 書くことに関する指導事項

- ア 題材の選定, 文体, 語句の工夫
- イ 論理の構成や展開の工夫, 論拠の明示
- ウ 適切な表現の仕方
- エ 自己評価と相互評価

##### B-(2) 書くことの言語活動例

- ア 詩歌や随筆—情景や心情の描写
- イ 説明や意見—文章や図表を引用
- ウ 手紙や通知—相手や目的に応じた語句

##### C-(1) 読むことに関する指導事項

- ア 表現の特色に注意して読む
- イ 文章の的確な読み取り, 要約や詳述
- ウ 人物, 情景, 心情を読み味わう
- エ 構成や展開, 内容や表現の仕方を評価
- オ 本や文章を読んで情報を得, 考えを深める

##### C-(2) 読むことの言語活動例

- ア 脚本, 古典を現代の物語に書き換え

エ 和歌や俳句を読み、書き換えたり外国語に訳したりすることを通して互いの解釈の違いについて批評・討論

オ 古典から受け継がれた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、発表

#### ◆内容の取扱い

##### (1) 【思考力、判断力、表現力等】における授業時数

ア 書くこと…5～10単位時間程度

イ 読むこと〈古典〉…40～45単位時間程度

※古文と漢文との割合は、一方に偏らない

※古典について解説した近代以降の文章を活用

ウ 読むこと〈近代以降〉…20単位時間程度

※我が国の伝統と文化に関する近代以降の論理的な文章を活用

※古典に関連する近代以降の文学的な文章を活用

##### (2) 【知識及び技能】に関する配慮事項

ア 常用漢字―「現代の国語」との関連を図る

イ 文語のきまり、訓読のきまりは、読むことの指導に即して行う

##### (3) 【思考力、判断力、表現力等】に関する配慮事項

ア 効果的に文字を書く―中学書写との関連を図る

イ 音読、朗読、暗唱を取り入れる

##### (4) 教材に関する留意事項

ア・「読むこと」の教材は、古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文を含める

・我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げる

・音声や画像資料を用いることができる

イ・古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳を適切に用いる。

・漢文には訓点を付け、適宜書き下し文を用いる

ウ 言語活動が十分に行われるように教材を選定

エ 教材を通して育む能力

(ア) 言語文化に対する関心・理解、国語の尊重

(イ) 言語生活に対する関心、伝え合う力の向上

(ウ) 思考力や想像力、豊かな心情、言語感覚

(エ) 情報を活用して判断する能力、創造的精神

(オ) 生活や人生への考察、たくましく生きる意志

(カ) 人間・社会・自然への関心、深い考察

(キ) 我が国の伝統と文化に対する関心・理解

(ク) 国際理解、日本人の自覚、国際協調の精神

イ 表現メディアから情報を読み取り、まとめる

ウ 実用的な文章を読んで理解し、話し合う

エ 文章を読み比べ、内容や表現を批評する

#### ◆内容の取扱い

##### (1) 【話すこと・聞くこと】に関する配慮事項

ア 15～25単位時間程度を配当

イ 口語のきまり、言葉の用法、敬語の用法を扱う  
※適宜

##### (2) 【書くこと】に関する配慮事項

ア 30～40単位時間程度を配当

##### (3) 【読むこと】に関する配慮事項

ア・古典と近代以降の文章の授業時数は同等を目安

・古文と漢文との割合は、一方に偏らない

イ 音読、朗読、暗唱を取り入れる

ウ 読書の幅を広げ、読書の習慣を養う

##### (4) 【伝統的な…】に関する配慮事項

ア 文語のきまり、訓読のきまりは、読むことの指導に即して行う

##### (5) 教材に関する留意事項

ア 各領域の能力を偏りなく養う話題や題材を調和的に取り上げる

イ 言語活動が十分に行われるように教材を選定

ウ・古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳を適切に用いる。

・漢文には訓点を付け、適宜書き下し文を用いる

・古典に関する近代以降の文章を含める

エ 教材を通して育む能力

(ア) 言語文化に対する関心・理解、国語の尊重

(イ) 言語生活に対する関心、伝え合う力の向上

(ウ) 思考力や想像力、豊かな心情、言語感覚

(エ) 情報を活用して判断する能力、創造的精神

(オ) 論理的・科学的な考察力、視野の拡大

(カ) 生活や人生への考察、たくましく生きる意志

(キ) 人間・社会・自然への関心、深い考察

(ク) 我が国の伝統と文化に対する関心・理解

(ケ) 国際理解、日本人の自覚、国際協調の精神



# 〔選択〕 論理国語

4 単位

## ● 新課程と現行課程の内容比較

\* 傍線部は新たに加わった内容

\* 薄字は「文学国語」に対応する内容

### 新課程「論理国語」(4 単位)

#### ◆内容〔知識及び技能〕

##### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 言葉の働き—言葉そのものを認識・説明
- イ 論証や学術的学習に必要な語句や語彙
- ウ 文や文章の組み立て方、接続の仕方
- エ 文章の構成や展開—段落の構造、論の形式

##### (2) 情報の扱い方に関する事項

- ア 情報と情報との関係—主張とその前提、反証
- イ 情報を階層化して整理—重要度や抽象度
- ウ 推論の仕方

##### (3) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 読書の意義と効用

#### ◆内容〔思考力、判断力、表現力等〕

##### A-(1) 書くことに関する指導事項

- ア 題材の決定、情報の収集・整理、内容の検討
- イ 主張を支える根拠—情報の妥当性、論点の明示
- ウ 読み手の説得—文章構成や論理展開の工夫
- エ 主張の明確化—根拠や論拠の吟味
- オ 文章の工夫—表現の仕方や段落構造の吟味
- カ 推敲—自分の文章の特長や課題の把握

##### A-(2) 書くことの言語活動例

- ア 特定の資料の概要をまとめる
- イ 分析⇒報告文、仮説を立てて考察⇒意見文
- ウ 論説文や関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめて相互批評
- エ 自分の考えを論述—資料の収集と整理

##### B-(1) 読むことに関する指導事項

- ア 内容や構成、論理展開の把握、要旨の把握
- イ 主張と資料との関係の把握
- ウ 主張や根拠を批判的に検討—妥当性の吟味
- エ 文章構成や論理展開、表現の仕方を評価
- オ 関連する文章や資料との比較
- カ 多様な論点や異なる価値観による自説の検討
- キ 複数の文章や資料から必要な情報を関係付ける

##### B-(2) 読むことの言語活動例

- ア 内容や形式について批評・討論
- イ 社会的な内容の論説文を基に、考えを論述

### 現行課程「現代文B」(4 単位)

#### ◆内容

##### (1) 指導事項

- ア 構成・展開・要旨の把握、論理性的の評価
- イ 書き手の意図や、人物・情景・心情の把握
- ウ 文章の批評を通して考えを深める
- エ 集めた情報を分析・整理し、考えを表現
- オ 語句や語彙、表現上の特色を役立てる

##### (2) 言語活動例

- ア 人物の生き方やその表現の仕方を評価
- イ 書き手の考えやその展開の仕方を評価

- ウ 学術的な文章を基に，考えを論述
- エ 同じ題材の複数の文章を読み比べて批評
- オ 調べた資料を基に，考えを発表，報告，論述

◆内容の取扱い

(1) 【思考力，判断力，表現力等】における授業時数

- ア 書くこと…50～60単位時間程度
- イ 読むこと…80～90単位時間程度

(2) 【思考力，判断力，表現力等】に関する配慮事項

- ア 近代以降の文章の変遷を扱う ※適宜

(3) 教材に関する留意事項

- ア・「読むこと」の教材は，近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とする
  - ・翻訳の文章や古典における論理的な文章を用いることができる
- イ 言語活動が十分に行われるように教材を選定

- ウ 表現メディアの特色を捉えて，表現の仕方を考えたり創作活動を行ったりする
- エ 調べた資料を基に，考えを発表，報告，論述

◆内容の取扱い

(1) 全般に関する配慮事項

- ア 話すこと・聞くこと，書くこと及び読むことの密接な関連を図る

(2) 読書指導に関する配慮事項

- ア 読書意欲を喚起し，文字文化への理解を深める

(3) 文学の変遷に関する配慮事項

- ア 近代以降の文学の変遷について扱う ※適宜

(4) 教材に関する留意事項

- ア・教材は，近代以降の様々な種類の文章とする
  - ・現代の社会生活で必要とされる実用的な文章を含める
  - ・翻訳の文章や近代以降の文語文を用いることができる



# 〔選択〕 文学国語

4単位

## 新課程と現行課程の内容比較

\*傍線部は新たに加わった内容

\*薄字は「論理国語」に対応する内容

### 新課程「文学国語」(4単位)

#### ◆内容〔知識及び技能〕

##### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 言葉の働き—想像や心情を豊かにする働き
- イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句や語彙
- ウ 文学的な文章の種類と特徴
- エ 文学的な文章の表現技法—文体・修辞

##### (2) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 我が国の言語文化の特質
- イ 読書の意義と効用

#### ◆内容〔思考力、判断力、表現力等〕

##### A-(1) 書くことに関する指導事項

- ア 題材の決定、情報の収集・整理、内容の検討
- イ 読み手の関心—文章の構成や展開の工夫
- ウ 独創的な文章の工夫—文体・修辞
- エ 推敲—自分の文章の特長や課題の把握

##### A-(2) 書くことの言語活動例

- ア 小説や詩歌の創作、相互評価
- イ 心情や情景描写の書き換え、工夫点の発表
- ウ 翻案作品の創作—古典⇒小説
- エ 共同で作品制作に取り組む

##### B-(1) 読むことに関する指導事項

- ア 内容や構成、展開、描写の仕方の把握
- イ 語り手の視点、場面設定、表現の特色の評価
- ウ 文体の特徴や効果の考察—他作品との比較
- エ 解釈の多様性の考察
- オ 作品の成立背景や他作品との関係をふまえて解釈
- カ 作品の解釈をふまえて考え方を深める
- キ 複数の作品を基に、考え方を深める

##### B-(2) 読むことの言語活動例

- ア・内容や形式について書評を書く  
・自分の解釈や見解を基に議論する
- イ 評論や論説を参考に、作品の評価を論述
- ウ 小説を他形式の作品に書き換え—小説、絵本等
- エ 演劇や映画と原作との比較—批評文、紹介文
- オ 詩文のアンソロジーを作成—発表、批評
- カ 資料を基に、作品の評価を発表

### 現行課程「現代文B」(4単位)

#### ◆内容

##### (1) 指導事項

- ア 構成・展開・要旨の把握、論理性的の評価
- イ 書き手の意図や、人物・情景・心情の把握
- ウ 文章の批評を通して考えを深める
- エ 集めた情報を分析・整理し、考えを表現
- オ 語句や語彙、表現上の特色を役立てる

##### (2) 言語活動例

- ア 人物の生き方やその表現の仕方を評価
- イ 書き手の考えやその展開の仕方を評価
- ウ 表現メディアの特色を捉えて、表現の仕方を考えたり創作活動を行ったりする
- エ 調べた資料を基に、考えを発表、報告、論述

◆内容の取扱い

(1) 【思考力、判断力、表現力等】における授業時数

- ア 書くこと…30～40単位時間程度
- イ 読むこと…100～110単位時間程度

(2) 【思考力、判断力、表現力等】に関する配慮事項

- ア 読むことに関連して文学の変遷を扱う ※適宜

(3) 教材に関する留意事項

- ア・「読むこと」の教材は、近代以降の文学的な文章とする—小説、詩歌、随筆、戯曲
  - ・翻訳の文章や古典における文学的な文章、近代以降の文語文を用いることができる
  - ・演劇や映画の作品についての評論文を用いることができる
  - ・文学についての評論文を用いることができる
- イ 言語活動が十分に行われるように教材を選定

◆内容の取扱い

(1) 全般に関する配慮事項

- ア 話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの密接な関連を図る

(2) 読書指導に関する配慮事項

- ア 読書意欲を喚起し、文字文化への理解を深める

(3) 文学の変遷に関する配慮事項

- ア 近代以降の文学の変遷について扱う ※適宜

(4) 教材に関する留意事項

- ア・教材は、近代以降の様々な種類の文章とする
  - ・現代の社会生活で必要とされる実用的な文章を含める
  - ・翻訳の文章や近代以降の文語文を用いることができる



# 〔選択〕 古典探究

4単位

## 新課程と現行課程の内容比較

\*傍線部は新たに加わった内容

### 新課程「古典探究」(4単位)

#### ◆内容〔知識及び技能〕

##### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 古典に用いられる語句や語彙
- イ 古典の作品や文章の種類と特徴
- ウ 古典の文の成分、文章の構成や展開
- エ 古典の表現の特色—言葉の響き・リズム・修辞

##### (2) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 我が国の文化の特質、外国の文化との関係
- イ 文語のきまり、訓読のきまり
- ウ 時間の経過による言葉の変化、現代への影響
- エ 読書の意義と効用

#### ◆内容〔思考力、判断力、表現力等〕

##### B-(1) 読むことに関する指導事項

- ア 構成や展開の把握
- イ 古典特有の表現に注意して内容把握
- ウ 書き手の考え・目的・意図を捉えて解釈  
・構成や展開、表現の特色について評価
- エ 作品の成立背景や他作品との関係をふまえて解釈、作品の価値について考察
- オ 内容や解釈を自分の知見と照らす—考えを深化
- カ 作品に表れる考え方をふまえて考えを深める
- キ 様々な古典作品を基に、考え方を深める
- ク 我が国の言語文化に対する考えを深める

##### B-(2) 読むことの言語活動例

- ア 内容や形式についての疑問を調べて発表
- イ 複数の古典を読み比べ、共通点・相違点を発表
- ウ 和歌や俳諧、漢詩の創作、文語での作文
- エ 内容解釈をふまえて朗読
- オ 様々な資料を調べ、その成果を発表・報告
- カ 言葉の変遷についての考えを論文にまとめる
- キ 往来物や名句・名言から、生活に役立つ知識の文例を集め、それらの意義についてまとめる

### 現行課程「古典B」(4単位)

#### ◆内容

##### (1) 指導事項

- ア 語句の意味・用法、文の構造の理解
- イ 構成や展開に即して内容を把握
- ウ 思想や感情を捉え、考え方を深める
- エ 内容や表現の特色を基に、作品の価値を考察
- オ 我が国の文化の特質、中国の文化との関係を理解

##### (2) 言語活動例

- ア 言葉の変遷について報告
- イ 複数の古典を読み比べ、共通点・相違点を説明
- ウ 人間の生き方や考え方について、文章中の表現を根拠に話し合う
- エ 様々な資料を調べ、その成果を発表・報告

#### ◆内容の取扱い

##### (1) 【知識及び技能】に関する配慮事項

ア 文語のきまり，訓読のきまりの指導は，読むことの指導に即して行う

##### (2) 【思考力，判断力，表現力等】に関する配慮事項

ア 古文と漢文の両方を取り上げ，一方に偏らないようにする

イ 音読，朗読，暗唱を取り入れる

ウ 古典の変遷を扱う ※適宜

##### (3) 教材に関する留意事項

ア・「読むこと」の教材は，古文と漢文とし，日本漢文を含める

- ・古典における論理的な文章を取り上げる
- ・近代以降の文語文や漢詩文，古典についての評論文を用いることができる

イ 言語活動が十分に行われるように教材を選定

ウ 教材は，文章の種類，長短や難易に配慮し，適当な部分を取り上げる

#### ◆内容の取扱い

##### (1) 古文及び漢文の取扱いに関する配慮事項

ア 古文と漢文の両方を取り上げ，一方に偏らないようにする

##### (2) 音読，朗読，暗唱に関する配慮事項

ア 音読，朗読，暗唱を取り入れる

##### (3) 文語文法の指導に関する配慮事項

ア 文語文法の指導は，読むことの指導に即して行う

##### (4) 教材に関する留意事項

ア 教材は，文種や形態，長短や難易に配慮し，適当な部分を取り上げる

イ・教材には日本漢文を含める

- ・近代以降の文語文や漢詩文，古典についての評論文を用いることができる



# 〔選択〕 国語表現

4単位

## 新課程と現行課程の内容比較

\*傍線部は新たに加わった内容

### 新課程「国語表現」(4単位)

#### ◆内容(知識及び技能)

##### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ア 言葉の働き—自己と他者の相互理解を深める
- イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割, 表現の特色
- ウ 考えを多彩に表現するための語句や語彙
- エ 実用的な文章の種類と特徴
- オ 表現技法—省略, 反復

##### (2) 我が国の言語文化に関する事項

- ア 読書の意義と効用

#### ◆内容(思考力, 判断力, 表現力等)

##### A-(1) 話すこと・聞くことに関する指導事項

- ア 話題の決定, 情報の収集・整理, 内容の検討
- イ 話の構成や展開—適切な根拠, 反論の想定
- ウ 話の構成や展開—具体例の効果的な配置
- エ 表現の工夫—言葉の選択, 資料や機器の利用
- オ 内容や構成, 展開, 表現の仕方を評価
- カ 話への共感, 相手の思いや考えを引き出す工夫
- キ 話合いの仕方や結論の出し方の工夫

##### A-(2) 話すこと・聞くことの言語活動例

- ア スピーチ, 面接⇔聞いて批評
- イ 連絡, 紹介や依頼⇔聞いて批評
- ウ インタビュー, 報道等の映像を見てまとめる
- エ 結論を得る話合い, 考えを引き出す議論や討論
- オ 発表—情報の収集・整理, 発表資料の作成

##### B-(1) 書くことに関する指導事項

- ア 題材の決定, 情報の組合せの工夫, 内容の検討
- イ 文章の構成や展開—適切な根拠, 反論の想定
- ウ 文章の構成や展開—具体例の効果的な配置
- エ 表現の工夫—根拠となる情報を基に説明
- オ 表現の工夫—的確な描写や説明
- カ 推敲—自分の文章の特長や課題の把握

##### B-(2) 書くことの言語活動例

- ア 文章の種類を選んで書く
- イ 企画書や報告書—文章+図表, 画像
- ウ 説明書や報告書を再構成して書き換え
- エ 実務的な手紙(紹介, 連絡, 依頼), 電子メール
- オ 提案書—資料の収集, 整理

### 現行課程「国語表現」(3単位)

#### ◆内容

##### (1) 指導事項

- ア 集めた情報を分析し, 考えを表現
- イ 課題解決のための話合い
- ウ 論理の構成や描写の仕方の工夫
- エ 言葉遣いや文体など表現の工夫
- オ 推敲—表現効果の吟味や相互批評
- カ 言語の成り立ち, 表現の特色, 言語の役割

##### (2) 言語活動例

- ア 情報を基に考えをまとめ, 発表や討論
- イ 詩歌や小説, 鑑賞文を書く
- ウ 調べた資料を基に, 解説や論文を書く
- エ 紹介, 連絡, 依頼のための話や文章
- オ 調査した資料を図表や画像も用いて編集

カ インタビューを報告書にまとめる

◆内容の取扱い

(1) **【思考力、判断力、表現力等】における授業時数**

ア 話すこと・聞くこと…40～50単位時間程度

イ 書くこと…90～100単位時間程度

(2) **【思考力、判断力、表現力等】に関する配慮事項**

ア 「話すこと・聞くこと」の指導には、発声や発音の仕方、話す速度を扱う ※適宜

イ 「書くこと」の指導には、文章の形式を扱う ※適宜

(3) **教材に関する留意事項**

ア・「話すこと・聞くこと」の教材は、音声や画像を用いることができる

イ 言語活動が十分に行われるように教材を選定

◆内容の取扱い

(1) **全般に関する配慮事項**

ア 話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて指導することができる

(2) **言葉遣いや文体の指導に関する配慮事項**

ア 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式を扱う ※適宜

(3) **言葉、表現の指導に関する配慮事項**

ア・文や文章、語句、語彙及び文語の表現法を扱う ※適宜

・現代社会における言語生活のあり方を考える

(4) **教材選定に関する留意事項**

ア・思考力や想像力を伸ばす学習に役立つもの

・情報を活用して表現する学習に役立つもの

・歴史的、国際的視野から現代の国語を考える学習活動に役立つもの

# 高等学校 新教育課程「カリキュラムモデル案」

(下線は必履修科目。斜字は学校設定科目。普通科は週32単位時間、実業校は31単位時間で想定。○囲み数字は単位数)

2018年 8月

第一学習社モデル案作成

## モデル案A 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
1年	現代の国語②	言語文化③	歴史総合②	数学Ⅰ③	数学A②	物理基礎②	生物基礎②	体育③	保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ④	論理・表現Ⅰ②	情報Ⅰ②	総合的な探究の時間①	LHR①																			
2年 文系	論理国語②	古典探究②	文学国語②	地理総合②	公共②	日本史探究② 世界史探究②	数学Ⅱ④	数学B②	化学基礎②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	家庭基礎②	LHR①																			
2年 理系	論理国語②	古典探究②	地理総合②	公共②	数学Ⅱ④	数学B②	化学基礎②	化学②	物理② 生物②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	家庭基礎②	LHR①																			
3年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④	政治・経済②	数学研究③	化学研究②	生物研究②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	文系選択科目②	総合的な探究の時間①	LHR①																				
3年 理系	論理国語②	古典探究②	地理探究④	数学Ⅲ④	数学C②	物理④ 生物④	化学④	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	総合的な探究の時間①	LHR①																						

### ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を1科目、理科を2科目配置、2年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を1科目配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」2単位、「言語文化」3単位、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。
3. 必履修科目の「英語コミュニケーションⅠ」を1年生で4単位、「情報Ⅰ」を1年生に、「家庭基礎」を2年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と3年次履修の計2単位とした。

## モデル案B 全日制普通科の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
1年	現代の国語②	言語文化②	地理総合②	公共②	数学Ⅰ④	数学A②	生物基礎②	体育②	保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③	論理・表現Ⅰ②	家庭基礎②	情報Ⅰ②	総合的な探究の時間①	LHR①																		
2年 文系	論理国語②	古典探究②	文学国語②	歴史総合②	日本史探究② 世界史探究②	数学Ⅱ④	数学B②	化学基礎②	地学基礎②	体育③	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	総合的な探究の時間①	LHR①																			
2年 理系	論理国語②	古典探究②	歴史総合②	数学Ⅱ④	数学B②	物理基礎③	化学基礎②	化学③	体育③	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	総合的な探究の時間①	LHR①																				
3年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	国語表現② 数学研究②	日本史探究⑤ 世界史探究⑤ 地理探究⑤	政治・経済②	政治・経済② 倫理②	化学④ 生物④ 地学④	体育②	英語研究② 文系選択科目②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	総合的な探究の時間①	LHR①																				
3年 理系	論理国語②	古典探究②	地理探究④ 国語研究②	数学研究②	数学Ⅲ④	数学C②	物理⑤ 生物⑤	化学③	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	総合的な探究の時間①	LHR①																					

### ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を1科目配置、2年生で必履修の地歴公民を1科目、理科2科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」「言語文化」を2単位ずつ、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。「国語表現」は文系2・3年生で選択。
3. 必履修科目の「数学Ⅰ」を1年生で4単位履修する。
4. 必履修科目の「家庭基礎」「情報Ⅰ」とも1年生に配置した。

## モデル案C 全日制普通科の一例

1年	現代の国語②	言語文化②	地理総合②	公共②	数学Ⅰ③	数学A②	化学基礎②	生物基礎②	体育③	保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③	論理・表現Ⅰ②	情報Ⅰ②	総合的な探究の時間①	LHR①
2年 文系	論理国語②	古典探究②	文学国語②	歴史総合③	数学Ⅱ④	数学B②	地学基礎②	化学② 生物②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	家庭基礎②	総合的な探究の時間①	LHR①	
2年 理系	論理国語②	古典探究②	歴史総合②	数学Ⅱ⑤	数学B②	物理基礎②	物理②	化学② 生物②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	家庭基礎②	総合的な探究の時間①	LHR①	

3年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	国語表現② 数学研究②	日本史探究⑤ 世界史探究⑤ 地理探究⑤	政治・経済③ 倫理③	生物研究②	化学研究② 地学研究②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	文系選択科目②	総合的な探究の時間①	LHR①
3年 理系	論理国語②	古典探究②	地理探究④	数学Ⅲ⑤	数学C②	物理④	化学④ 生物④	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	保健①	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	総合的な探究の時間①	LHR①

### ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を2科目、理科を2科目配置、2年生で必履修の地歴公民1科目(「歴史総合」を3単位とした)、理科1科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」「言語文化」を2単位ずつ、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し、文系は加えて「文学国語」も履修する。「国語表現」は文系2・3年生で選択。
3. 必履修科目の「情報Ⅰ」を1年生に、「家庭基礎」を2年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と2年次履修の計2単位とした。

## モデル案D 全日制普通科の一例

1年	現代の国語②	言語文化③	歴史総合③	数学Ⅰ③	数学A②	化学基礎②	体育③	保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③	論理・表現Ⅰ②	家庭基礎②	情報Ⅰ②	総合的な探究の時間①	LHR①
2年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	地理総合②	公共②	日本史探究③ 世界史探究③	数学Ⅱ④	生物基礎②	地学基礎②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	総合的な探究の時間①	LHR①
2年 理系	論理国語②	古典探究②	地理総合②	公共②	数学Ⅱ④	数学B②	物理基礎②	生物基礎②	物理② 生物②	化学②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②	LHR①
3年 文系	論理国語②	古典探究③	文学国語②	日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④	政治・経済② 倫理② 数学研究②	英語研究② 国語研究②	化学④ 生物④ 地学④	体育③	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②	政治・経済② 倫理② 理科学研究②	文系選択科目②	総合的な探究の時間①	LHR①	
3年 理系	論理国語②	古典探究②	地理探究③ 国語研究③ 英語研究③	数学Ⅲ⑤	数学C③	物理③ 生物③	化学③	英語コミュニケーションⅢ④	体育③	英語コミュニケーションⅢ④	理系選択科目②	総合的な探究の時間①	LHR①		

### ポイント

1. 1年生で必履修の地歴公民を1科目(「歴史総合」を3単位とした)、理科を1科目配置、2年生で必履修の地歴公民を2科目、理科2科目(文・理系で異なる)を配置した。
2. 国語は1年生で「現代の国語」2単位、「言語文化」3単位、2・3年生で「論理国語」「古典探究」を履修し(単位数異なる)、文系は加えて「文学国語」も履修する。
3. 必履修科目の「家庭基礎」「情報Ⅰ」とも1年生に配置した。
4. 「総合的な探究の時間」は1時間減単して、1年次と3年次履修の計2単位とした。

## モデル案E 全日制実業校の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	言語文化③		歴史総合②		数学Ⅰ③			科学と人間生活②		体育②		保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③		家庭総合②		実業科目⑩										LHR①			
2年	現代の国語②		文学国語②		公共②		数学A②		生物基礎②		体育②		保健①	英語コミュニケーションⅡ④		家庭総合②		実業科目⑪										LHR①			
3年	文学国語②		地理総合②		国語研究② 政治・経済②		日本史探究③			体育③		論理・表現Ⅰ②	国語研究② 数学研究②	社会研究② 理科学研究②		実業科目⑫										LHR①					

### ポイント

- 主として商業系高校を想定した。
- 必履修の地歴公民3科目は、1・2・3年生で2単位ずつ履修。理科は1年生で「科学と人間生活」、2年生で「生物基礎」を履修し、必履修科目をクリアとする。
- 国語は1年生で「言語文化」を3単位、2年生で「現代の国語」を2単位で必履修をクリアし、2・3年生で「文学国語」を2単位ずつ履修する。
- 必履修の「家庭総合」(4単位)を1・2年生で2単位ずつ分割して履修する。
- 「総合的な探究の時間」は、実業科目の中の「課題研究等」の授業履修に置き換えることを前提とする。

## モデル案F 全日制実業校の一例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	現代の国語②		地理総合②		数学Ⅰ③			科学と人間生活②		体育③		保健①	音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 書道Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③		実業科目⑫										LHR①					
2年	言語文化③		公共②		数学Ⅱ④			物理基礎② (生物基礎②)		体育②		保健①	英語コミュニケーションⅡ②		実業科目⑭										LHR①						
3年	国語研究②		歴史総合②		数学A②		数学B② 学校設定科目②		理科学研究② 学校設定科目②		体育②		英語コミュニケーションⅡ②	家庭基礎②		実業科目⑭										LHR①					

### ポイント

- 主として工業系・農業系高校を想定した。
- 必履修の地歴公民3科目は、1・2・3年生で2単位ずつ履修。理科は1年生で「科学と人間生活」、2年生で「物理基礎」(生物基礎)を履修し、必履修科目をクリアとする。
- 国語は1年生で「現代の国語」を2単位、2年生で「言語文化」を3単位で必履修をクリア。3年生で学校設定科目の「国語研究」を配置。
- 必履修の「家庭基礎」を3年生で履修する。
- 「総合的な探究の時間」は、実業科目の中の「課題研究等」の授業履修に置き換えることを前提とする。

文部科学省ホームページ 新学習指導要領  
「高等学校学習指導要領解説」等を加工して作成。  
(カリキュラムモデル案を除く。)

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1407074.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm))

※本冊子の詳細な内容は、パソコン・スマートフォンでご確認下さい。  
(別途通信費が必要です。)



## 新教育課程 高等学校 学習指導要領 ポイント解説 国語



教育図書出版

第一学習社

2018年9月20日発行

東京：〒102-0084 東京都千代田区二番町5番5号 ☎03-5276-2700  
 大阪：〒564-0052 吹田市広芝町8番24号 ☎06-6380-1391  
 広島：〒733-8521 広島市西区横川新町7番14号 ☎082-234-6800

札幌：☎011-811-1848 青森：☎017-742-4600 仙台：☎022-271-5313  
 新潟：☎025-290-6077 つくば：☎029-853-1080 東京：☎03-5803-2131  
 横浜：☎045-953-6191 金沢：☎076-291-5775 名古屋：☎052-769-1339  
 神戸：☎078-937-0255 広島：☎082-222-8565 福岡：☎092-771-1651  
 沖縄：☎098-896-0085